



# 30周年を迎えた、北海道の道の駅。 令和の時代は新たなステージへ



1993年4月に全国103カ所、北海道内14駅から始まった「道の駅」。北海道の「道の駅」は2022年で30周年を迎え、計129駅（うち2駅は登録廃止）まで広がりを見せています。それぞれが果たす機能も多様化し、言わば“第3ステージ”を迎えた道の駅の取り組みを紹介します。

## 1 道路に駅があってもよいのではないか

「道の駅」が誕生するきっかけとなったのは、1990年1月に開催された中国地域づくり交流会のシンポジウムの中で、「道路に駅があってもよいのではないか」との提案がなされたことがその始まりといわれています。

その後、有識者による懇談会において、“地域とともに作る個性豊かなにぎわいの場”を基本コンセプトとして、整備に向けた市町村と道路管理者双方の取り組み方、必要なサービスなどが検討され、提言としてまとめられました。

この提言を踏まえ、国土交通省（当時は建設省）は、「道の駅」の整備を推進していくため、1993年に「道の駅」の登録・案内制度を定めました。そして、その年の4月に全国103カ所、北海道では14駅の「道の駅」が誕生しました。

## 2 通過する道路利用者のサービス提供の場 ～第1ステージ

「道の駅」は、道路利用者に快適な休憩と多様で質の高いサービスの提供を図るため、①休憩機能、②情報発信機能、③地域連携機能の3機能を備え、休憩施設と地域振興施設が一体となった道路施設として整備がはじまりました（図1）。

北海道では、三笠、スタープラザ芦別、南ふらの、しらぬか恋間、びふか、江差、望羊中山、えんべつ富士見、忠類、足寄湖（現在は登録廃止）、摩周温泉、おといねっぶ、かみゆうべつ温泉チューリップの湯、いわないの14駅が1993年4月に登録され、開業しました。

その後、毎年のように新たな道の駅が誕生し、2012年には日本最北の道の駅「わかかない」が114番目の道の駅として開業しました。

## 3 道の駅自体が目的地 ～第2ステージ

制度発足から20年目の2013年には、全国で1005駅となり、1000駅の大台に乗りました。この時点の一つの区切りとして道の駅は「第2ステージ」に入ったと言われるようになりました。

制度創設当初に定められた「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」に加え、「地域防災」「地域福祉」など地域の課題解決の拠点、観光立国の推進役、「地方創生」の拠点としても位置付けられるようになりました。

地域の創意工夫により、道の駅自体が観光の目的

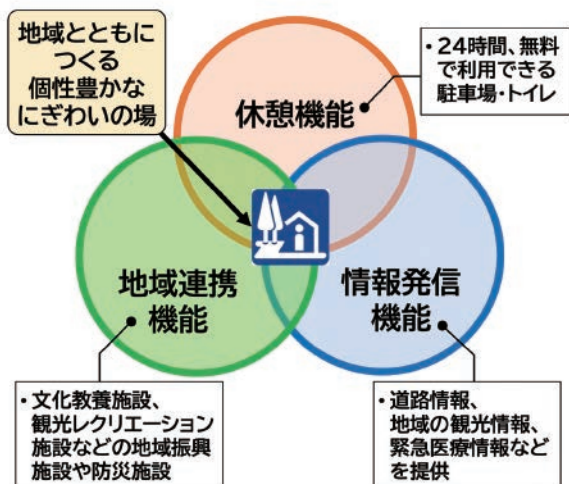


図1 「道の駅」の機能と基本コンセプト



地や地域の拠点として発展しました(図2)。

また、2004年の新潟県中越地震、2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震などでは、道の駅の防災機能が発揮され、国民生活に欠かせない公共施設であることを印象づけました。

## 4 地方創生・観光を加速する拠点 ～第3ステージ

『新「道の駅」のあり方検討会』では、2020年～2025年を“「道の駅」第3ステージ”と位置付け、地方創生・観光を加速する拠点として、以下の三つの姿を目指すべきと提言しました。

### (1) 道の駅を世界ブランドへ

一つ目の姿は道の駅が新たなインバウンド観光拠点となることを目指すというものです。

地方創生・観光を加速する拠点化を進めるため、多言語対応、キャッシュレス導入の推進等による受入環境の強化を進めています。また、交通拠点として役割も期待されていることから、MaaS(Mobility as a Service)との連携等による移動の活発化も進めています。

### (2) 新「防災道の駅」が全国の安心拠点に

二つ目の姿は、道の駅の防災拠点化です。

広域的な復旧・復興活動拠点となる道の駅を「防災道の駅」として認定する新たな制度を2020年度に創設し、国が重点的な支援を行っています。また、地域防災計画で位置付けられている道の駅では、BCP(業務継続計画)の策定や防災訓練など災害時の機能確保に向けた準備も進めています。

### (3) あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに

三つ目の姿は、道の駅があらゆる世代が活躍する地域センターとして機能することです。

子育て応援施設の設置、道の駅を舞台としたインターンシップによる商品開発等の推進の他、地域の課題解決や民間とタイアップした地域活性化プロジェクトの実施などにより、あらゆる世代が利用できる地域センターとしての機能強化を進めています。

従来はドライブ途中のトイレ利用や休憩など、立ち寄り地の場として認識されていた「道の駅」。

時代と共に、観光客が地元グルメや特産品、地域の歴史や文化に出合える場所となり、観光スポットの一つとして存在感を放つようになりました。そして令和の今、地域に暮らす人々にとってのコミュニケーションの場、防災の拠点としても活用されるようになりました。その多様なあり方が、道の駅に秘められた無限の可能性を私たちに伝えてくれています。



図2  
2017年にリニューアル  
オープンした道の駅「みかさ」

左：開業当初は道の駅の建物と、小規模な物販施設と農業資料館が立地。

右：2017年のリニューアルでは、飲食店や農産品販売店舗が集積する物販施設が開業。隣接地に、温泉施設、宿泊施設、パークゴルフ場がオープン。ドライブの休憩施設から、観光の目的地へ変貌。

※国土地理院撮影の空中写真(2007年、2020年撮影)を加工して作成